

from the world  
世界の国から

# ケニア共和国

Republic of Kenya



グラチャ・アディ

ケニア投資庁 (KIA)  
上席投資振興部長

Guracha ADI

Senior Investment Promotion Officer,  
Kenya Investment Authority (KIA)

首都 ナイロビ  
面積 約58万平方キロメートル  
人口 3240万人  
政体 複数政党制に基づく共和制  
元首 ムワイ・キバキ大統領  
宗教 プロテスタント、ローマンカトリック、イスラム教ほか  
通貨 ケニア・シリング  
日本からの主な進出企業  
コロちゃん株式会社、YKK、トヨタ自動車株式会社



## 地の利を活かして原料の供給国からの脱却を

### 安定した政治と優れた投資環境

ケニアが日本に投資促進官を派遣するというのは今回が初めての試みです。3週間という限られた期間でしたので、日本企業に向けての情報チャンネル作り、ケニアの現況をお知らせすることが活動の中心でした。投資促進の前段階、スタート地点にやっと立つことができたというのが今回の来日の正直な感想です。

ケニアは東アフリカの玄関口としても知られ、政治的にも安定しており、東南部アフリカ共同市場 (COMESA)、東アフリカ共同体 (EAC) のメンバーでもあります。モンバサに代表される貿易港を持ち、国内外へのアクセスという意味では、他のアフリカ諸国と比べても優位性を保っています。

また、輸出加工区が整備されているほか、コトヌ協定、アフリカ成長機会法 (AGOA)、一般特惠関税などの制度も充実しています。

ナイロビ国立公園とナイロビの街



### インフラ整備の民営化が進出の鍵

アフリカには53もの国があるので、まずは1つの国に拠点を作り、そこから他国に進出していくという形がお勧めできる展開方法だと思います。製造業への巨額の投資よりもむしろ、小回りのきく形のビジネスが成功への道だと感じます。

今後、日本企業のケニア進出に向けて有望視されるのが、インフラストラクチャーの分野です。05年にインフラに関する民営化の法案が可決されたことにより、日本企業にはビジネス機会が大きく膨らむのではないかと感じています。日本のインフラ関連技術が活かせる環境がケニア国内に整いつつあります。

次に期待できるのが、観光業です。日本からの観光客が増えれば、同時にホテル経営、環境保全など、観光にまつわる分野にもビジネス機会が広がるのではないのでしょうか。

### 農作物の現地加工に期待

また、GDPの24%を占める農業、農作物の加工について、これまでとは違う展開を期待しています。日本にはコーヒーを輸出していますが、現在は生豆を輸出し、日本で焙煎を行って



キリマンジャロ山

ます。今後はケニアで焙煎し、付加価値を付けて日本に輸出するプランが考えられます。特に日本人の嗜好に合う焙煎のプロセスに関して日本企業が積極的に関わってくだされば、品質の高いものになるのではないのでしょうか。

このシステムはコーヒーのみならず、特産の紅茶や除虫菊などにも応用できます。ケニアだけではなく他のアフリカ諸国も、原料の供給国という立場から脱却したいという思いがあります。現在のケニアでは原料を現地で最終製品、もしくは半製品にし輸出を行うところまで至っていないので、そのため日本企業の技術やシステムを借りたいのです。

今回の来日で築いた関係を保ちながら、日本からの投資を呼べる企画を実行し、これからも両国間の経済界の橋渡しを行いたいと思っています。

写真提供：ケニア政府観光局